(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2005-188280
(P2005-188280A)
(43)公開日　平成17年7月14日(2005.7.14)

(51)Int.Cl.[7]	F I		テーマコード（参考）
E03C 1/262	E03C 1/262	A	2D061

審査請求 未請求　請求項の数 2　OL　（全 8 頁）

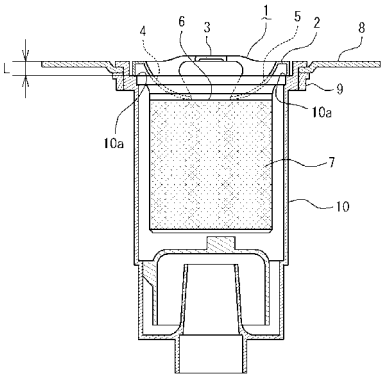
(21)出願番号　特願2005-31837(P2005-31837)
(22)出願日　平成17年2月8日(2005.2.8)
(62)分割の表示　特願2004-230715(P2004-230715)の分割
原出願日　平成11年6月17日(1999.6.17)

(71)出願人　000108661
タカラスタンダード株式会社
大阪府大阪市城東区鴫野東１丁目２番１号
(74)代理人　110000280
特許業務法人サンクレスト国際特許事務所
(72)発明者　西田　優花
大阪府大阪市城東区鴫野東１丁目２番１号
タカラスタンダード株式会社内

Fターム(参考)　2D061 DA03　DE03　DE15

(54)【発明の名称】流し台の排水口蓋

(57)【要約】　（修正有）
【課題】ストレーナの内部が見えないように隠蔽すると共に、スプーンなどの小物がストレーナ内に落ち込むことが効果的に防止される見栄えの良い排水口蓋をコスト低廉に提供する。
【解決手段】環状の外縁部２の内方に、この外縁部２を跨ぐように天板部３を連設し、この天板部３を両側から挟み込むように、一対の下方湾曲状の導水部４，５を外縁部２の内周から内方に突設した。そして、天板部３の下方において、この導水部４，５の内端同士を対向させ、ストレーナ内に連通する開口６を形成することとした。また、天板部３の外縁部２に連続する個所を下方に湾曲させて、端部が導水部４（または５）上に開口した導水用の溝を形成した。
【選択図】図４



【特許請求の範囲】
【請求項１】
流し台のシンクの底面に開口形成された排水口に、ストレーナを介して着脱可能に取り付けられる合成樹脂製の排水口蓋であって、
上記排水口蓋は、ストレーナの内周に形成された段付面部に嵌合する外縁部と、
この外縁部と少なくとも二個所において連続し、中央部分の上面を覆った天板部と、
天板部が連続していない外縁部から内方に向かって突設された複数の下方湾曲状の導水部とを有し、
上記導水部の内端同士の間で、ストレーナ内に連通する開口が、天板部の下方において形成されたことを特徴とする流し台の排水口蓋。
【請求項２】
天板部の上面が、外縁部の上面より上方に突出していることを特徴とする請求項１記載の流し台の排水口蓋。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、流し台のシンクに設けられた排水口に、この排水口への排水を妨げないように取り付けられる排水口蓋に関する。
【背景技術】
【０００２】
従来、この種の排水口蓋としては、図９に示すものがあった。この排水口蓋２０は、円盤状のゴム板を、菊割状即ちその中央部分に設けられた中心孔２１から周囲に向かって放射状に切欠し、複数の弾性舌片２２を形成したものであり、シンクの底面８に開口形成された排水口に装着されたストレーナ１０の内周の段付面部１０ａに嵌合することにより、このストレーナ１０の上面を塞ぐように取り付けられるものである。そして、この排水口蓋２０は、常時は各弾性舌片２２が、ほぼ水平に弾性保持されることにより、ストレーナ１０内に収納されたゴミ収集用の網かご（図示せず）を外部から視認できないように塞ぎ、かつ洗い物などでシンクを使用する際には、排水口に流れ込む流水圧で各弾性舌片２２が、先端下向きに撓み、洗い流された残飯や野菜屑などが円滑に網かご内に落ちるようになっている。
【０００３】
また、ゴム以外で形成されたものとしては、例えば特開平７－２８６３４９号に示される合成樹脂製のものがある。これは、図８に示すように外縁部３１の内方に、斜め上方に突設された上り傾斜片３２ａと、斜め下方に突設された下り傾斜片３２ｂとからなる被覆部３２を設け、両傾斜片３２ａ，３２ｂの間で排水が流れ込む流入口３３が形成されるようにしたものである。この排水口蓋３０は、前記したものと同様に、ストレーナ１０の内周に形成された段付面部１０ａに嵌合することにより、このストレーナ１０を介してシンクの排水口に取り付けられるようになっている。
【０００４】
ここにおいて、この合成樹脂製の排水口蓋３０は、下り傾斜片３２ｂがシンクの背面側（図８において右側）、即ち、上り傾斜片３２ａが流し台を使用する人の側に位置するように取り付けられている。従って、流し台の前に立って洗い物などをする際に、ストレーナ１０の内部に設けられた網かごやその内部に捕捉されたごみなどが、排水口蓋３０の上り傾斜片３２ａで遮られ、見えないので、利用者に不快感を生じさせることがなく、衛生的な印象が与えられるものである。
【０００５】
また、排水や排水と共に流されるごみなどは、排水口蓋３０の後側（図８において右側）に設けられた下り傾斜片３２ｂを伝って、ストレーナ１０ａ内の網かご７に案内されるようになっている。しかもこの時、食器などの洗い物は、半円弧状の下り傾斜片３２ｂ、あるいはこの下り傾斜片３２ｂと上り傾斜片３２ａとの間で引っ掛かり、容易には網かご

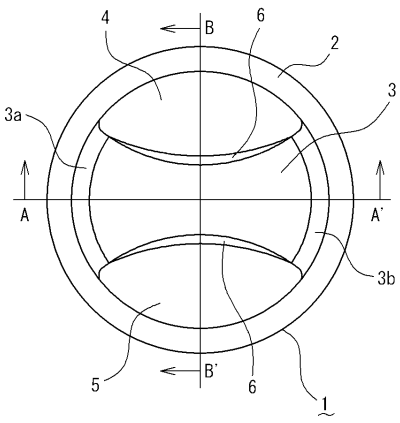
７内に落ち込まないようになっている。
【０００６】
なお、図９において符号１１は、ストレーナ１０の下端に連通した排水管を示す。
【発明の開示】
【発明が解決しようとする課題】
【０００７】
上述した従来の排水口蓋は、まず図９に示したものは、ゴムで形成された弾性舌片の弾性力を利用して排水口を塞ぐようにしているので、使用に伴って次第にその弾性復帰力が弱まり、弾性舌片の先端が下方に垂れ下がった状態で、復帰しなくなるおそれがあり、このようになると、ごみを捕捉した網かごが、外部から視認し得るように露呈し、使用者に不快で、かつ非衛生的な印象を与えるという問題点があった。
【０００８】
また、弾性舌片は流水などにより容易に下方に撓むようになっているので、洗い物などの際にスプーンなどの小物が、容易に網かご内に落ち込むという欠点もあった。さらにこの排水口蓋は、ゴムで製造されているのでコストが高いにもかかわらず、湯水や洗剤などの薬品等に曝されることにより、比較的早期に劣化してしまい、耐久性に劣るという問題点もあった。
【０００９】
図８に示したものは、上記のような問題点はかなり改善されているものの、ストレーナに取り付ける方向性が決まっているので、使用時に位置ずれが生じた場合は、ストレーナの内部が視認可能に露呈されることとなり、見苦しいばかりか、排水方向も変わるので、その排水性が悪くなるおそれもあった。
【００１０】
また、この排水口蓋は、ストレーナの内側を視認不可に隠蔽し、かつごみを流水と共に円滑に網かご内に流下案内できるように、下り傾斜片を大きく下方に湾曲させているので、上り傾斜片との間の流入口が大きく開口しており、このことから洗い物などの際にスプーンなどの小物が、この流入口からごみ捕捉用の網かご内に落ち込むおそれが全く無いとは言えなかった。
【００１１】
さらにこの排水口蓋では、シンク上に溜まった水は、一度、排水口蓋の後方に導かれた後、下り傾斜片を伝って前側に流れるようになっているので、排水の流れが円滑でなく、残飯や野菜屑などの洗い流しが円滑になされなかった。そして、網かごに落下した場合も、これらのごみが網かごの片側にかたまり、その排水性を妨げるおそれがあった。
【００１２】
さらにこの排水口蓋は、非対称形のため、歪みなどによる変形が生じ易く、変形した場合は、初期の目的通り、排水口を体裁良く塞ぐことができなくなるおそれもあった。
【００１３】
本発明は、上記従来の流し台の排水口蓋が有していた問題点の解決を課題とする。
【課題を解決するための手段】
【００１４】
上記の課題を解決するために、本発明のうち、請求項１記載の発明は、流し台のシンクの底面に開口形成された排水口にストレーナを介して着脱可能に取り付けられる合成樹脂製の排水口蓋を、ストレーナの内周に形成された段付面部に嵌合する外縁部と、この外縁部と少なくとも二個所において連続し、中央部分の上面を覆った天板部と、天板部が連続していない外縁部から内方に向かって突設された複数の下方湾曲状の導水部とを有するものとし、この導水部の内端同士の間で、ストレーナ内に連通する開口が、天板部の下方において形成されたことを特徴とする。
【００１５】
請求項２記載の発明は、上記請求項１記載の発明の構成において、天板部は、その上面が、外縁部の上面より上方に突出したものであるとの限定を付したことを特徴とする。

【発明を実施するための最良の形態】
【００１６】
以下、本発明を図示した実施の形態に基づき詳細に説明する。
【００１７】
図１は、本発明に係る流し台の排水口蓋１の一実施形態を示した平面図、図２と図３は、それぞれ図１のＡ－Ａ’線と、Ｂ－Ｂ’線の断面図である。また、図４は、流し台の排水口に取り付けられた状態の断面図である。この排水口蓋１は、平面視略環状の外縁部２と、この外縁部２に両端が連続した平面視略鼓形の天板部３、並びにこの天板部３を両側から挟み込むように外縁部２の内周から内方に突設された一対の導水部４，５とからなり、合成樹脂で一体成形されたものである。
【００１８】
外縁部２は、その外周端が下方に折れ曲がり、所定の高さの外周面２ａを有するものである。なお、この外周面２ａの高さは、流し台の排水口に装着されるストレーナ１０の表面から、その内周に形成された段付面部１０ａに至る距離（深さ）Ｌと、ほぼ等しい寸法に設定されている。（図４参照）
【００１９】
天板部３は、上面が平坦な板状のものであり、排水口蓋１の中心部分の表面を覆うように、外縁部２の内方に、この外縁部２を跨ぐようにして設けられている。なお、この天板部３は、その両側に設けられた段部３ａ，３ｂにより、外縁部２の表面からやや上方に突出している。
【００２０】
導水部４，５は、略半割り球状に、その先端が下方に湾曲したものであり、外縁部２の天板部３が連続しない個所、即ち、図１において天板部３の上下両側から、互いに内方に突設されている。そして、互いに対向するように突設された一対の導水部４，５は、その内端同士が、図３に示すように、天板部３の下方において、天板部３の幅とほぼ等しい間隔をおいて向き合い、ストレーナ１０内に連通する開口６を形成している。
【００２１】
本発明の流し台の排水口蓋１は、上記の構成を有している。そして、この排水口蓋１は、従来のものと同様に、ストレーナ１０の段付面部１０ａに嵌合することにより、流し台のシンク底面８に設けられた排水口に取り付けられるようになっている。
【００２２】
なお、この時、排水口蓋１の取付方向は、特に限定されないが、流し台の前後方向に対して天板部３を縦方向、即ち、流し台の前方に立った人に対して、導水部４，５が左右両側に位置するように配置する事が望ましい。
【００２３】
図４において符号９は、ストレーナ１０をシンク底面８に開口形成された排水口に取り付けるための締付ナットを示す。
【００２４】
しかして、本発明の流し台の排水口蓋１では、シンク底面８上に流された水は、残飯や野菜屑などと共に、天板部３の両側に設けられた導水部４，５から円滑に網かご１１が設けられたストレーナ１０内に導かれる。そして、このストレーナ１０内部の網かご１１や、この網かご１１内に捕捉されたごみなどは、天板部３と導水部４，５とで外部から視認不可に効果的に隠蔽されるようになっている。
【００２５】
このように本発明の流し台の排水口蓋１では、二カ所から水が流れ込むので、排水が速やか、かつ円滑になされる。しかも排水口蓋１の中央部分に天板部３が設けられ、この天板部３の両側の下方には、導水部４，５が設けられているので、洗い物などの際にスプーンや箸などを流しても容易にストレーナ１０内には、落ち込まない。
【００２６】
また、中央部分に設けられた天板部３をつかむことにより、排水口蓋１に無理な力をか

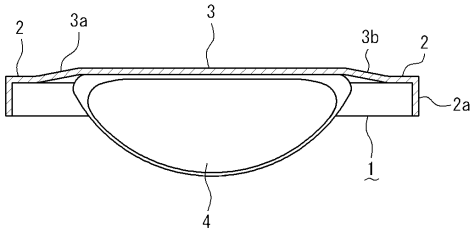
けることなく、その着脱操作も容易に行える。
【００２７】
図５～図７は、本発明の他の実施形態を示している。この場合は、中央部分の天板部１３を略三角形状とし、その各頂点の三カ所で外縁部１２に連続させ、三角形の辺に相当する個所に対向した外縁部１２の内周から三つの導水部１４，１５，１６を下方湾曲状に内方突設している。
【００２８】
この排水口蓋１１も上記のものと全く同様に、図４に示したようなストレーナ１０を介して流し台の排水口に取り付けられ、流し台に流された水が、天板部１３の外側に設けられた各導水部１４，１５，１６から、天板部１３の下側に形成された開口１７に導かれ、この開口１７からストレーナ１０内に流れ込むようになっている。
【００２９】
〔発明の効果〕
以上説明したように、本発明のうち、請求項１記載の発明は、流し台の排水口に取り付けられる蓋を、環状の外縁部と連続した天板部の下側に向かって複数の下方湾曲状の導水部を設けたものとしたので、水が複数の導水部から円滑、かつ速やかに排水される。しかも導水部を複数設けることにより、天板部との間隙が小さくでき、見苦しいストレーナの内部を、見えないように効果的に隠蔽できると共に、スプーンや箸などが不用意に、ストレーナの内部に設けられたごみ捕捉用の網かごに落下することも防止される。
【００３０】
また、左右対称の形状なので、見栄えが良いばかりか、歪みによる変形も生じ難く、成形が容易でコスト低廉に製造できるにもかかわらず、使用時の変形も少なく、長年にわたって使用することができる。
【００３１】
さらに外縁部を跨ぐように設けられた天板部は、蓋を着脱する際の手掛かりともなり、ここを持って操作することにより、排水口蓋に無理な力をかけることなく、その着脱が容易に行える。また、この天板部は、その上面が平坦な形状なので、鍋などを洗う際に、その底を安定保持することができる。
【００３２】
請求項２記載の発明は、天板部の上面を、外縁部の上面より上方に突出させたので、排水性を考慮して排水口の近傍が低位となるように設定されているシンクにおいても、天板部の上面をこのシンクの平均的な底面位置に合わせることができる。よって、大型の鍋などを洗う際に、その底をより安定保持することができ、作業が行い易くなるという効果がある。
【図面の簡単な説明】
【００３３】
【図１】本発明に係る排水口蓋の実施形態の平面図である。
【図２】図１のＡ－Ａ’線断面図である。
【図３】図１のＢ－Ｂ’線断面図である。
【図４】図１に示した排水口蓋を排水口に取り付けた状態の断面図である。
【図５】本発明の他の実施形態の平面図である。
【図６】図５のＣ－Ｃ’線断面図である。
【図７】図５のＤ－Ｄ’線断面図である。
【図８】従来例の取付状態の断面図である。
【図９】他の従来例の取付状態の斜視図である。
【符号の説明】
【００３４】
１，１１　排水口蓋
２，１２　外縁部
３ａ，３ｂ　段部

３，１３　天板部
４，５，１４，１５，１６　導水部
６，１７　開口

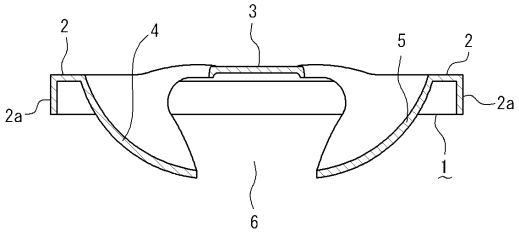
【図１】



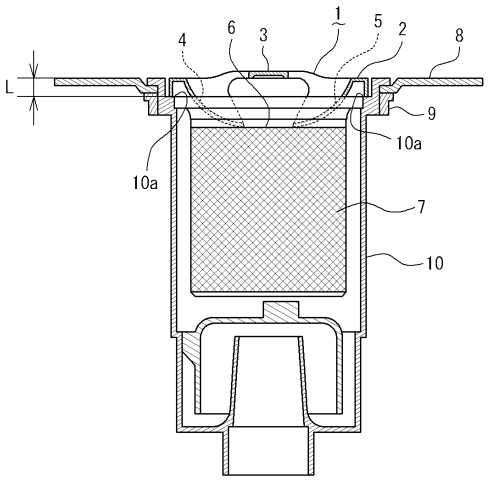
【図２】



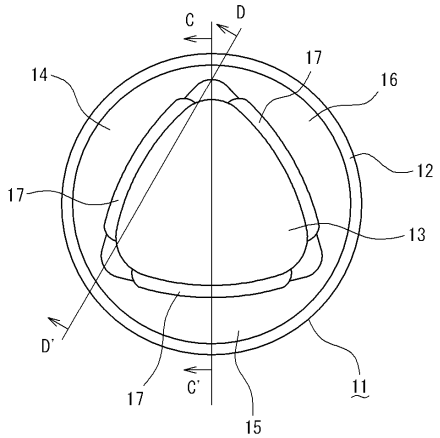
【図３】


2
4
3
5
2
2a
2a
1
6

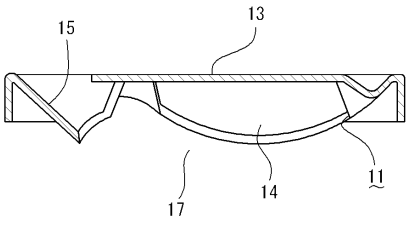
【図４】


1
4
6
3
5
2
8
L
9
10a
10a
7
10

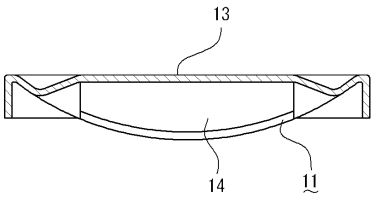
【図５】


C
D
14
17
16
12
17
13
D'
17
C'
11
15

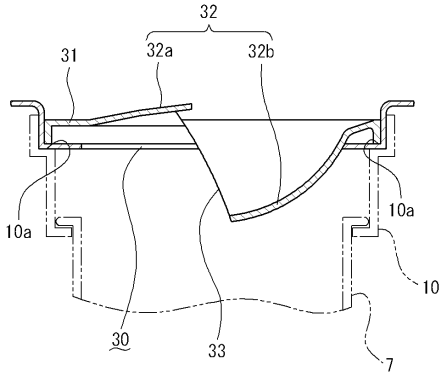
【図６】


13
15
17
14
11

【図７】



【図８】



【図９】

